

事實は、姜信沆「神農と韓国姜姓の系譜」には、韓国の姜氏の歴史が書かれている。さらなる事實は、姜云培氏の「発刊にあたって」に述べられた氏自身の運命である。氏をはじめとする在日の韓国人の人々をもてあそんだ東アジアの歴史変動は、数奇な現在を生み出している。氏族を思う心と自らのアイデンティティーをもとめて、この本の出版費用を出資された姜云培氏の思いこそ胸をあつくするものである。また韓国済州道の晋瀛祠廟庭に炎帝神農淵源記碑「姜氏淵源記」を建立されたのは、その思いを後世に伝えるものである。

この論文集に論文を寄せられた研究者たちも、それぞれの分野で活躍されている人ばかりである。杉原たく哉「神農像の成立と展開」、小曾戸洋「神農と医薬」、崔來沃「韓国の農神信仰の研究」は神農にかかわる諸問題に答える好論文である。

神農はいまなお中国朝鮮韓国日本台湾などで信仰されている。村山吉廣「日本における神農崇拜」、内山知也「台湾における神農崇拜」、加藤道理「湯島聖堂の神農像と祭祀」には人々に崇拜され尊敬される神農の信仰が述べられている。

最後に医薬と神農の関係について言及しておく、小曾戸論文がその事情に詳しい。この論文は二つの章から成り立っている。「神農本草経」の世界」と「医薬文献に見る神農賞賛の歴史」である。「神農本草経」の世界」は現在の「神農本草経」の研究状況を明らかにしたものであり、今後「神農本草経」を文献として取り扱うためにはまず必見のものである。

ろう。「医薬文献に見る神農賞賛の歴史」は、小曾戸氏が近年一番注目している分野の一つであり、充実したものになっている。特に室町末期から江戸末期まで続く神農像の変遷は、当時の医家がどれほどまで神農を尊敬していたかを明らかにしている。杉原論文とともに興味ある内容である。

神農は福建や台湾では、お米屋、農民、薬種商の神様であるという。日本では、香具師ややくざの神様でもあるらしい。また近年の中国での信仰の状態などは、この本では伺えない。朝鮮半島における神農は、職業神とはならなかったであろうか。神農への興味はまだまだ尽きないものがある。この本がその一里塚であることは論を待たない。

(猪飼 祥夫)

〔斯文会発行・東京都文京区湯島一―四―二五、電話〇三―三二五―一四六〇六、平成七年発行、B五判、四六五頁、頒価一〇、〇〇〇円〕

寺師睦宗著『漢方を築いた先哲』

寺師睦宗氏はいまさら御紹介するまでもなく、大塚敬節氏の門人で、かつて日本東洋医学会の会長をつとめられ、現在、慶応義塾大学医学部客員教授としても活躍されている漢方界の重鎮である。臨床家としてはとくに不妊症の治療に卓抜した実績を挙げておられるが、医学史にも造詣が深く、とりわけ江戸時代の漢方家、たとえば永富独嘯庵・内藤希哲・喜多

村直寛・山田業広などの学医について研究され、顕彰につとめてこられた。本書は書題の示すとおり、そういった漢方先哲の伝と業績を一冊のコンパクトな書にまとめたものである。収録される人物は次の一〇名である。

- ① 日本医学中興の祖——曲直瀬道三（一五〇七〜一五九四）
 - ② 医学革命の医傑——吉益東洞（一七〇二〜一七七三）
 - ③ 忠誠の名医——和田東郭（一七四三〜一八〇三）
 - ④ 若き天才医学者——内藤希哲（一七〇一〜一七三五）
 - ⑤ 若き情熱の国手——永富独嘯庵（一七三二〜一七六六）
 - ⑥ 考証学者の泰斗——喜多村直寛（一八〇四〜一八七六）
 - ⑦ 考証学者の名医——山田椿庭（一八〇八〜一八八二）
 - ⑧ 漢方存続運動に生涯をかけた——浅井国幹（一八四八〜一九〇二）
 - ⑨ 漢方復興の火を灯す——和田啓十郎（一八七二〜一九一六）
 - ⑩ 近代漢方医学中興の鼻祖——湯本求真（一八七六〜一九四一）
- 寺師氏の文章はつねに歯切れがよく、すこぶる明快である。読み始めると一気に最後まで読ませられてしまう。それほど寺師氏の文章は魅力的である。余計なことがくどくど書かれていないから、要点がすつと頭の中に入る。それぞれにつけられた副題もさることながら、各章における小見出しの文句もきわめて要領を得ていて、一瞬にして読者に言わんとすることを悟らしめる。
- 本書を明快にしているもう一つの理由は、豊富な図版の挿入である。資料性の高い一級の図版はそれだけでも価値がある。

付録が二種ついている。一つは他書に対する著者の読後評で、四篇が収められる。いま一つは著者のかつての自著に対する他者の書評で、一七篇が収録されている。著者がこれまでどのような著述をなし、世間からどのような評価を受けてきたかが一目でわかり、参考になる。

先哲漢方医家の簡明かつ含蓄に富む伝記集として、漢方界以外の方々にもぜひ一読をお薦めしたい。

（小曾戸 洋）

〔泰晋堂・東京都千代田区麹町一―三―二三、麹町一丁目三番地
ビル四階四〇二号、電話〇三―三二八八―〇一八〇、一九九五年五月一日発行、A6判、二〇八頁、定価七〇〇円〕